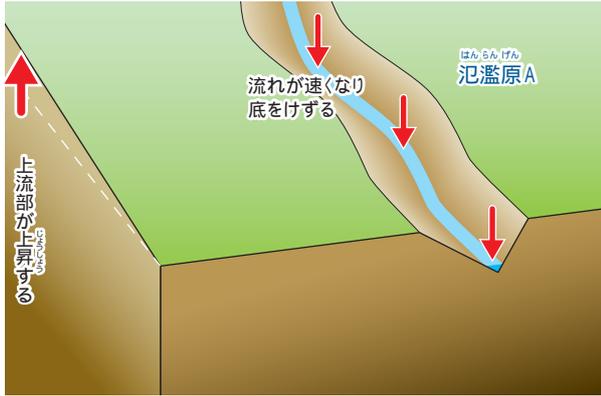
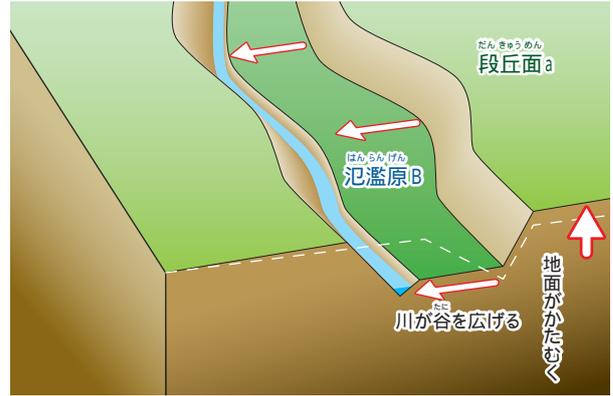


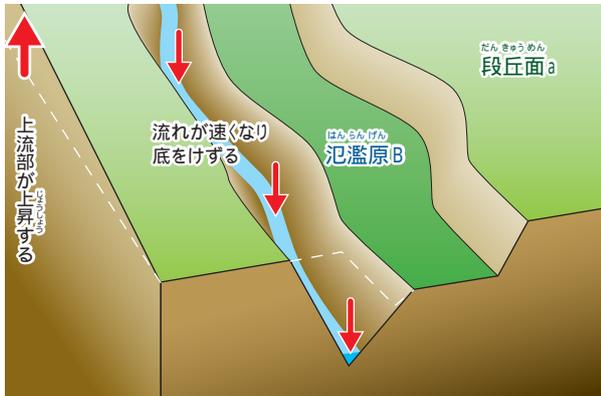
段丘のでき方 ... 大地の動きと水の力で



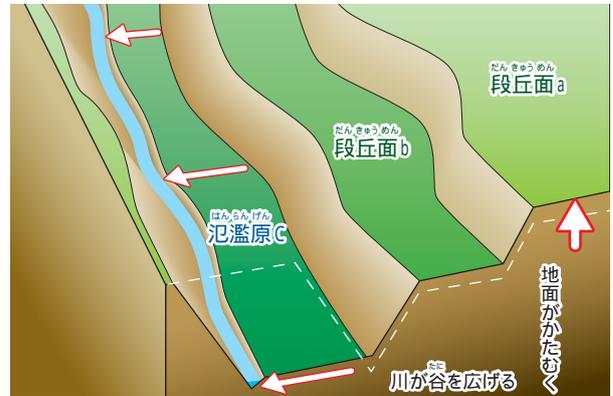
川の上流が上昇し（または海面が低下して）、流れが速くなります。すると、川底がけずられ、川は氾濫原Aを残してしずんでいきます。残された氾濫原Aは、段丘面aとなります。段丘面とは段丘の上の平地のことです。



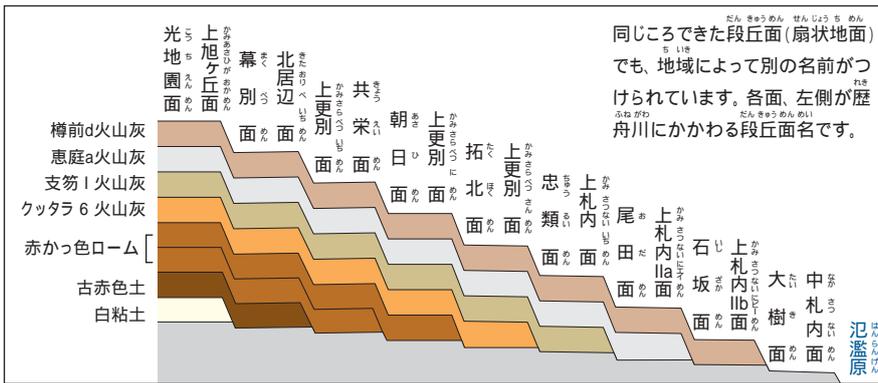
上流の上昇が止まり、横方向に地面がかたむくことで、川の流が移り変わりながら谷を広げていきます。広がった谷は新しい氾濫原Bとなります。氾濫原には洪水の時に水があふれ、川が運んだ土砂がたまりまます。



再び川の上流が上昇し、川底がしずんでいきます。それまでの氾濫原Bは取り残され、新しい段丘面bとなります。  
(注: 上流部の上昇は、多くの場合、横方向のかたむきと同時に起きます)

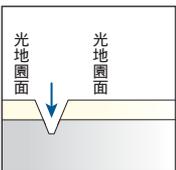


再び横方向のかたむきによって川が谷を広げ、氾濫原Cをつくりまます。その後も ~ がくり返されることで、何段もの段丘ができていきます。

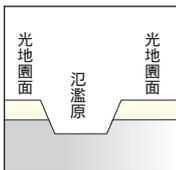


段丘面ができると、その上には土がたまり地層をつくりまます。その後、段丘がけずられると、堆積した地層もなくなります。れき層の上の地層を調べることで、いつごろできた段丘面なのかがわかります。短い間に広く積もる火山灰は、段丘の年代を比べるのにとても役立ちまます ( p55・p21)。

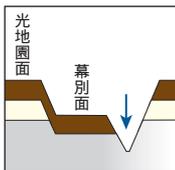
(上)十勝の段丘のイメージ断面図(スパッとタテに切って横から見た図)。



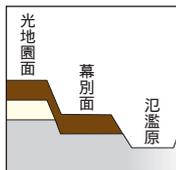
川底が低くなる。れき層の上に白粘土層ができる。



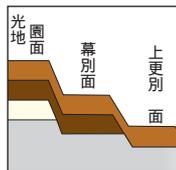
広がった氾濫原では、れきとその上の白粘土層が流される。



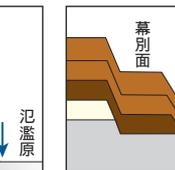
川底が1段下がる。古赤色土層ができる。



広がった氾濫原では、れきとともに上の地層が流される。



川底が1段下がる。砂質の赤いローム層ができる。氾濫原が広がる。



川底が1段下がる。粘性の強い赤いローム層ができる。

参考:「十勝の自然を歩く」より、改変

4 ローム: ねばりけのある土であり、粘土 ( 5 )やシルト ( 6 )を25 ~ 40%くらい含むものを指す。火山灰や黄砂などが暑さ寒さや酸素などで風化して、粘土化したもの。  
5 粘土 (ねんど): とても細かいつぶの土 (岩のかけら)。地質学では粒径(りゅうけ

い: つぶの大きさ)が1/256mm未満をいう。  
6 シルト (英語: silt): シルトとは、砂より小さく粘土より大きなつぶの土 (岩のかけら)。地質学では、粒径1/16mm ~ 1/256mmのもの。

第1章 十勝の平野や川ができるまで  
第2章 先史時代と川  
第3章 アイヌ文化と川  
第4章 十勝開拓と川  
第5章 発展 今、そして未来へ

用語 さくいん